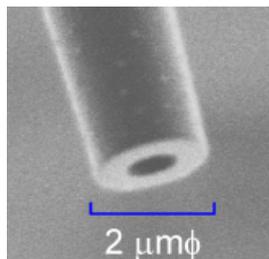


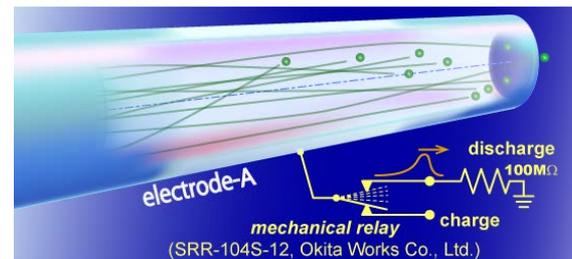
ガラスキャピラリーによるマイクロビームの生成と応用

国立研究開発法人 理化学研究所 仁科加速器科学研究センター 計測技術チーム

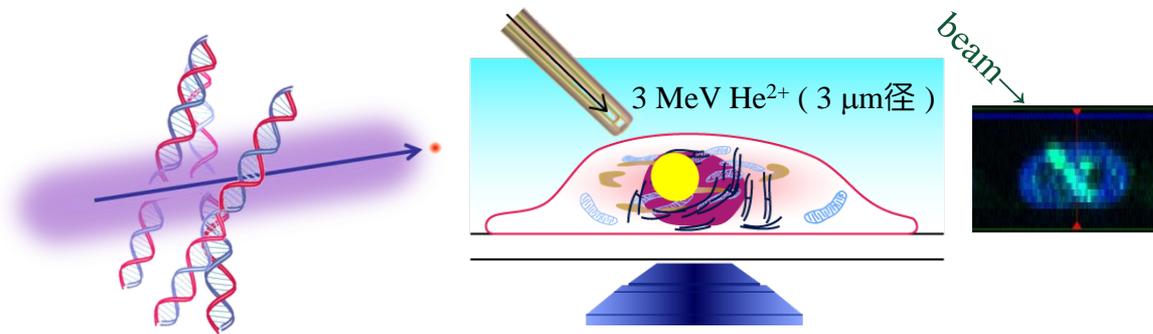
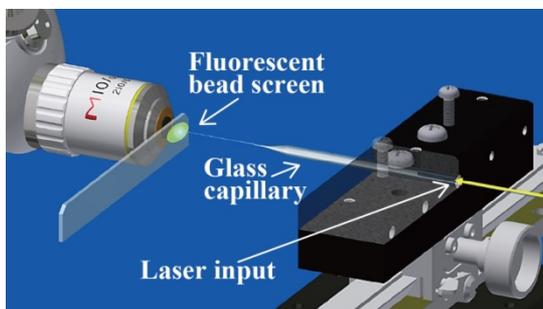
池田時浩先生



9月20日(木)5限
8-303教室



テーパ型ガラスキャピラリーに量子ビームを通過させれば、マイクロメートルサイズの径をもつ量子マイクロビームが容易に生成できる。イオンビームのエネルギーが keV オーダーの時、その生成法は絶縁体表面の自己組織化帯電現象に支配され、通過ビーム強度に特異な時間発展が見られる。一方、MeV オーダーでは、ビーム出射口に隔壁を付け溶液中の標的に照射する技術が開発されており、多重散乱による揺らぎを低く抑え、かつ、最大限のダメージを付与するブラッグピーク位置を立方ミクロン精度で保証する細胞内小器官ピンポイント損傷が行われている。本コロキウムでは、歴史から最前線まで紹介する。



このコロキウムは大学院集中講義 R321、R322、R0321、R0322を兼ねます。

問合せ先 反応物理化学 城丸 (内線3447)